第12回 校長会議あいさつ

R.6.2.15　稲垣

朗報がありました。吉良中学校1年の岡田さんが、フィギュアスケートの全国中学校体育大会で優勝したそうです。明日には市長への表敬訪問に来庁する予定と聞いています。しばしば報道されますが、本市にもいろいろな分野で大活躍する子どもたちがいて頼もしく感じます。

本日は二点についてお話します。

一点目は、先月末、令和6年度新規採用教員の連絡会を開催しました。本市では、来年度も74人という多くの新任を迎える予定です。県教委の配慮により、本年度当初のような大きな欠員を回避できる見通しであることは幸いですが、経験の乏しい新規採用教員を指導する学校の負担は小さくありません。しかし、縁あって本市に赴任し、未来の教育を担ってもらう大切な仲間です。一日も早く学校に慣れて、若者らしいエネルギーで学校を盛り上げてくれることを期待したいと思います。

連絡会のあいさつでは、以下の話をしました。はじめに、学校現場がブラックだという風評に惑わされないで、教師を志してくれたことに感謝しました。そして、本市には、さまざまな教育環境の小中学校があること。街中の城跡に立つ学校もあれば、森に囲まれて校内でクワガタの採れる学校、離島にあって学校行事でアサリ取りをする学校もあり、児童生徒数も25人から1000人以上までありますが、どの学校にも親切で面倒見の良い先生は大勢いるので、安心して頼ってほしいと話しました。結びは、教員としての心構えについてです。今後さまざまな子どもたちと出会うので、その子どもたち皆の先生であるために、「自分を変えていく」こと。つまり力をつけることと、心を磨くことに努めてほしい。自分を変えていくことは楽なことではないけれど、山道は登った分だけ景色は良くなり、心地よい風が吹きます。きっと教師になって良かったと実感できるので頑張ってくださいとエールを送りました。

二点目は、学校教育に対するイメージについてです。とある世界規模の世論調査において、日本国民の学校教育に対する信頼感の低さが目立ちました。その中で、学校に子どもを通わせている親は、学校に通う子どもがいない人に比べて、自国の教育システムに肯定的でした。すなわち学校のことを知らない人たちが学校や教員に対して批判的なのです。このような実態が教員のなり手不足を深刻化させているし、教育問題の解決を難しくしています。昨今、暗い世相を反映してか危機感や不安を感じさせる報道が多いですが、私たちは、学校教育に対するネガティブなイメージの浸潤を少しでも止められるように、明るい話題の発信に努めたいと思います。